

## 7 管内 3 農場で散発的に発生した牛ボツリヌス症の 府内初発事例

南丹家畜保健衛生所  
○山本 哲也 極山 太

【はじめに】牛ボツリヌス症は平成 6 年に北海道で確認以降、全国的に発生が拡大し、近年、D/C モザイク型の D 型毒素による発生例が増加。今回、管内 3 農場において、府内初発事例を含めた発生と疑い事例を確認。【経過】平成 27 年 3 月、A 農場（酪農）で 2 頭が起立不能を呈し、診療獣医師からの病性鑑定依頼で立入検査を実施。後駆麻痺、起立不能、腹式呼吸等の臨床症状から本症を疑い、PCR 検査、毒素検査及び毒素型別を実施。続いて、直線距離で約 6km 離れた B 農場（肉用肥育）、4 月に A 農場近隣の C 農場（酪農）でも同様の症状を呈する牛を確認。3 農場合計で発症 21 頭、鑑定殺を含む死亡 17 頭を確認。【結果】発症牛の解剖所見では小腸及び第 4 胃粘膜、心内膜等の充出血が見られたが、顕著な病変はなく、組織所見で回腸粘膜下組織小動脈壁のフィブリノイド変性を確認。A 及び C 農場の各 1 頭と A 農場のカラス糞から本菌遺伝子と D 型毒素（D/C モザイク型）を検出。【まとめ】関係者への情報提供と注意喚起を行いながら発生農場の牛舎消毒、カラス対策、近隣農場を含めたボツリヌス症ワクチン接種等により 4 月 19 日の最終発生で終息。発生牛舎内に飛来していた保菌カラスの糞を摂取した牛が発症したものと推察。今後の発生に備え、疑い段階での毒素検査と緊急ワクチン接種等の対応マニュアルを作成。